

# NEWS

Tenri University Sankokan Museum

# LETTER NO.16

ニュースレター NO.16

天理大学附属天理参考館

発行日：2014. 3. 17

発行：天理大学附属天理参考館

編集：広報普及係

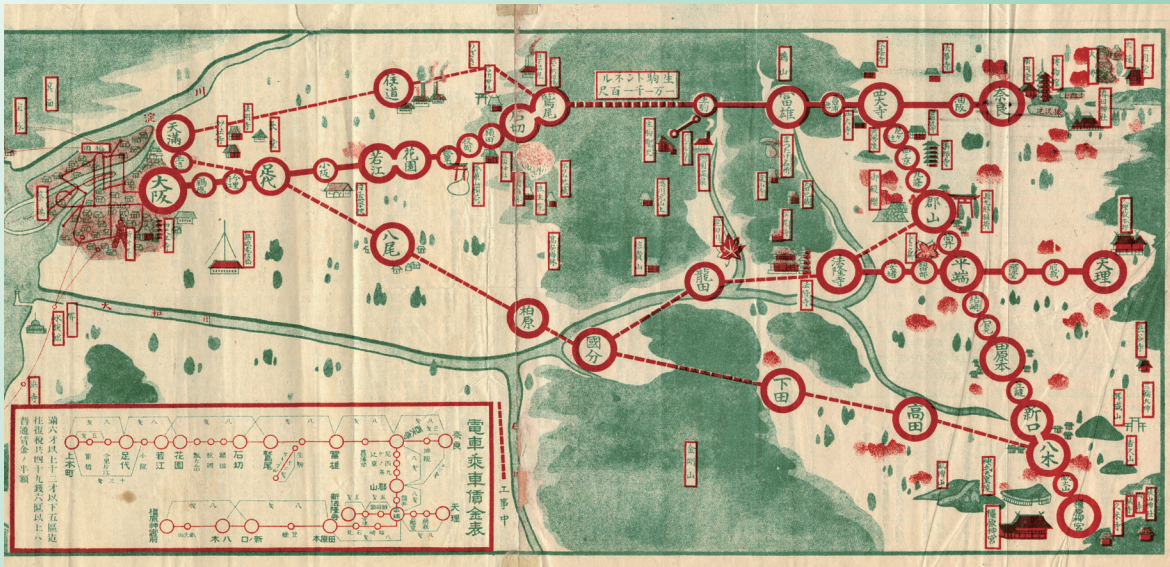
第71回 企画展

## 近鉄電車展

会期：2014年4月9日(水)～5月27日(火)

会場：3階企画展示室

—日本最大の私鉄開業1世紀—



大軌電車案内(大正12年頃 大阪電気軌道)

近畿日本鉄道の母体である大阪電気軌道が、上本町奈良間、現在の奈良線を大正3年に開業し1世紀を数えます。幾多の合併・再編を経て、大阪府・奈良県・京都府・三重県・愛知県に路線を持つ、日本最大規模の私鉄となった近鉄は、都市間交通だけではなく、名所旧跡への重要な交通手段として発展してきました。

本展では、乗車券や関連する紙資料を中心に、大私鉄の歴史をひもとき、地域住民の足としてはもちろん、広範囲のネットワークとして果たしてきた役割についてご紹介します。上記資料(写真:大軌電車案内)は大正12年頃に発行された観光案内リーフレット「大軌電車ご案内」の一部分で、近鉄草創期の路線と沿線の名所旧跡等を見ることができます。奈良線と橿原線や当時法隆寺まで繋がっていた天理線の他に、後に近鉄大阪線となる八木足代(現:布施)の路線、郡山国分間・鷺尾天満間のような未成線(実現しなかった路線)も計画線として記されています。一方、競合路線である国鉄線等は記載されていません。

数々の鉄道資料を通して、歴史に思いを馳せ、その背景にある当時の鉄道事情や人々の生活の一端を垣間見ていただければ幸いです。



奈良線特急新設記念乗車券(昭和31年 近畿日本鉄道)

### 記念講演会

『「学園前」と「学研都市」

—丘陵開発をめぐる〈民〉と〈官〉—』

日時：4月26日(土) 午後1時30分～

講師：島村 恭則氏(関西学院大学社会学部教授)

会場：研修室

受講料：入館料のみで受講できます

定員：100名(当日先着順)

### ギャラリートーク

日時：4月18日(金)、5月26日(月) 午後1時30分～

会場：3階企画展示室

### 硬券印刷実演と鉄道模型走行

日時：4月12日(土)、18日(金)、29日(火・祝)、5月3日(土)、

6日(火・祝)、17日(土)、24日(土)、26日(月)

午前11時～、午後2時30分～(約30分)

午後のみ開催 午前のみ開催 ※会場にて記念券を配布します。

会場：3階企画展示室



# 「はにわ大集合！」

会期：2014年7月2日(水)～9月1日(月)  
会場：3階企画展示室・3階ホール

埴輪は古墳の上に並べるために作られた、古墳時代独特の焼きものです。大きく分けて筒形の円筒埴輪と、人物や動物や道具の形の形象埴輪の2種類があります。

埴輪は三百年以上もの長い間、東北から九州に至る広い地域で作られました。はじめは円筒埴輪だけでしたが、やがて形象埴輪が生まれました。人物埴輪のなかで女の人は巫女のような姿、男の人は武人が多く、動物埴輪は鶏と馬が大半を占めます。道具の埴輪は貴人の日よけの道具、建物、矢の入れ物、盾などがあります。埴輪に形作られたのは、日頃の暮らしにはあまり関係のない物や、特別な役目を担う人たちでした。そして、形象埴輪を古墳に並べる順番はある程度決まっていたようです。そこで、形象埴輪を古墳に並べる順番はある程度決まっていたようです。そこで、形象埴輪は何かの儀式や、古墳に葬られた首長の権威を表すと考えられています。現在の古墳は、木々に覆われていて古墳か山か区別がつかませんが、千数百年前に古墳が完成した時は木は生えておらず、表面は土や石敷きでした。当時の人たちは古墳の上に累々と並ぶ埴輪を仰ぎ見て、そこに眠る首長の威光を感じたことでしょう。



騎馬人物埴輪

今回の企画展では当館蔵品のなかから、円筒埴輪、形象埴輪ともにご覧頂きます。奈良県東大寺山古墳の埴輪や、大阪府仁徳天皇陵(大仙古墳)の埴輪のほか、近畿ではあまり見る機会のない関東地方の形象埴輪も展示します。それぞれの埴輪は、かわいい顔をしていたり大きく立派だったり個性豊かで、土の人形としても楽しむことができます。この機会に埴輪について知っていただくとともに、それぞれの埴輪の個性もお楽しみ頂ければ幸いです。

また夏休み中の展覧会なので、子供さんにも楽しんで頂けるコーナーを設置します。多くの方にお越し頂きたいと願っています。(藤原)

## 予習講座

### 「はにわ入門

—企画展はにわ大集合! にむけて—  
日時：6月5日(木)、19日(木)、7月3日(木)  
午後1時30分～(約1時間)  
会場：1・2回目 研修室  
3回目 3階企画展示室

## 講演会

日時：7月19日(土) 午後1時30分～  
講師：千賀久氏(葛城市歴史博物館館長)  
会場：研修室  
受講料：入館料のみで受講できます  
定員：100名(当日先着順)

## ギャラリートーク

日時：7月25日(金)、8月9日(土)、8月26日(火) いずれも午後1時30分～  
会場：3階企画展示室

## イスラエルにおける発掘調査(十三)



石灰窯完掘状況

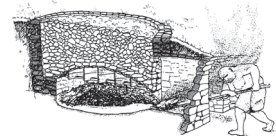
これまでエン・ゲヴ遺跡の様子をみてきましたが、今回はエン・ゲヴ遺跡で発見されたローマ時代の石灰窯を紹介したいと思います。

石灰窯というのは石灰石を焼いて生石灰を生産するための窯ですが、これがエン・ゲヴ遺跡の最上層で2基発見されています。比較的残りの良い1基(写真)についてみてみるとことにしましょう。石灰窯は長径3.8m、深さ1m程のすり鉢状の円形のもので、南には外部に通じる階段状の施設があって、その取り付け部の両側には、板石を積み上げて作った直径約50cm、高さ80cmの円柱が1.2mの距離を置いて設けられていました。また、底には直径1m程のピットが穿たれていて、ここには多量の炭が堆積していました。

出土遺物は数個の石灰石以外には何もなく、年代の決め手がありませんでしたが、ピットの炭を放射性炭素年代測定にかけると、ローマ時代のだいたいB.C.50年からA.D.110年頃のものであることがわかりました。

当初、この穴の性格はよくわかりませんでした。テル・アヴィヴ大学の故モシェ・コハヴィ先生(タムグチ)の御教示で、これが石灰窯であることがわかりました。階段状の施設は焚口で、すり鉢状の穴が燃焼室だったと考えられます。

石灰窯で生産された生石灰(酸化カルシウム)は、水に浸して消石灰(水酸化カルシウム)にして、漆喰やモルタルなどの材料として使用されました。ローマ人はさらにこれを水の中でも固まる石灰モルタルやコンクリートとして広く使用するようになりました。これにより、壮大なアーチの構造をもつ建築物がつくられるようになりました。このほか、防水を必要とする水路・浴槽・水槽・水道の内面処理や湿潤地での建築・舗装・屋根瓦のシーリングなどにこのモルタルが使用されました。近くには壮大なヒッポスと呼ばれる遺跡がありますが、おそらく石灰はここで利用されたのでしょう。少し形は違いますが石灰窯の復元図を載せておきます。(日野)



石灰の焼成復元図(Dix 1982)

## 松田顧問の考古余話⑥ 火山災害と考古学



一昨年、群馬県渋川市<sup>かないひがしうら</sup>金井東裏遺跡で、6世紀の榛名山<sup>はるなさん</sup>噴火によって、甲を身につけた武人が被災した状態で発見され話題となりました。当初、火山を鎮めようとする祈りの儀式の最中に、火砕流にのみ込まれたという特異な状況が想定されましたが、その後の検証で冑や馬具など貴重品を抱えて家族とともに避難していた際に、襲ってきた火砕流から逃げ切れなかったのが真実のようです。

同県では浅間山の噴火による被害も記録に残っており、天明3年の大爆発では北側の嬭恋村が火砕流に襲われ、村内の鎌原集落は約5mも埋没してしまい、8割を超える里人が犠牲になる壊滅的な被害に見舞われました。鎌原観音堂の発掘調査では、50段ほどあった石段の大半が埋没し、逃げ遅れて泥流に巻き込まれた老若2体の女性の遺体が発見されました。年老いた近親者を背負って必死に逃れようとしたのでしょうか。

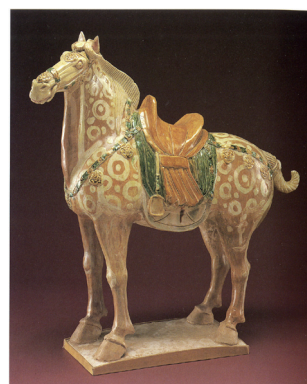
このような火山被害に限らず発掘現場では、過去の災害時の人々の行動までも明らかになることがあります。今後の災害をできる限り少なくする知恵<sup>ほうと</sup>や方途を探るために、地中から災害の惨状を詳らかにできる考古学の果たす役割は決して少なくないと思います。

### 資料紹介

### 三彩釉連銭馬

午年にふさわしい逸品を紹介しましょう。当館では唐代の馬<sup>ば</sup>俑を数多く所蔵しています。その造形は奔走する馬や、馬にまたがり打球と称するポロを表現した躍動感のあるものもありますが、多くはリアルに表現された静止状態の馬です。ゴージャスに飾った馬も見られ、掲出の資料もその一つです。

「連銭馬」と呼ばれるこの馬俑は、馬のからだに円形の紋様を施し、まるで銭を体中に貼りつけたような姿を見せています。本来、白い胎土全体に淡い茶褐色の化粧土をかけて馬の色を出しますが、この馬には円形の銭に当たる部分だけは化粧土を拭き取って白い地の部分を出し、そこに白い土でもって連銭を表現し、上から透明の釉<sup>ゆうやく</sup>をかけるという緻密な技法がみられます。さらに鞍には黄褐釉<sup>あおり</sup>、泥障には緑釉を、頭や尾には白釉などを施し、その濃淡で三彩としての美を倍増しています。たてがみや馬面の表現には西方的要素があり、顔の左側面は何かもの悲しい形相をしているものの、右側面は凛とした西洋馬の面構えをしています。西方からやって来た馬の中には、このような格調の高い駿馬もいたと思われます。(太田)



三彩釉連銭馬 唐 8世紀  
高さ 62.0cm

国道169号線を奈良方面に向かい、高架する名阪国道を過ぎると東側に赤い鳥居が目に入ります。その鳥居をくぐり、250m程東へ進むと左手に丘へ登る階段が見えてきます。この丘は4世紀末から5世紀初頭に築造された和爾下神社古墳の墳丘に当たり、社殿は古墳の後円部<sup>かきのもと</sup>に建てられています。その西側には柿本氏と縁のある柿本寺跡があり、中央部に古墳の石室材(天井石)が置かれています。

### 周辺の見所

### 和爾下神社

ところで、和爾下神社の「下」は、上社があつての「下」を意味し、櫛本の和爾下神社の北東1kmほどに鎮座する和爾坐赤坂比古神社が「上社」に当たると考えられています。また『延喜式』<sup>えんぎしき</sup>神名帳の大和国添上郡の項には、「和爾坐赤坂比古神社」以外に「和爾下神社二座」の記載があり、近辺に和爾下神社が二社あることを記しています。『大和志』や『大和名所図会』にも同様の記載があり、それによれば一座は前述した天理市櫛本町に、一座は大和郡山市横町に鎮座の社があてられており、二社は東西線<sup>なりひらみち</sup>(業平道)で2.5キロの距離を距てて鎮座しています。両社とも中央に素盞鳴命<sup>すさのうのみこと</sup>、左に大己貴命<sup>おおなむちのみこと</sup>、右に櫛稲田姫命<sup>くしいなだひめのみこと</sup>を祀っていますが、社名や祭神については紆余曲折があり、現在の名称に落ち着くのは、明治に入ってからのことだといわれています。(太田)



和爾下神社 天理市櫛本町



## 公開講演会トーク・サンコーカン

- ◇いずれも午後1時30分開講（申込不要）
- ◇会場：研修室
- ◇受講料：無料（ただし入館料が必要）
- ◇定員：100名

### 第229回『資料でたどる近鉄のあゆみ』

—奈良線開業1世紀—

5月24日(土) 講師/乾 誠二 学芸員

近畿日本鉄道の母体である大阪電気軌道が、奈良線は大正3年に開業し1世紀を数えます。幾多の合併・再編を経て、日本最大規模の私鉄となった近鉄は、都市間交通としてだけでなく、名所旧跡への重要な交通手段として発展してきました。

本講では、展示中の乗車券や関連する紙資料等から大私鉄の歴史をひもとき、奈良線や、各路線が担ってきた役割について考えてみます。

### 第230回『中国山東省の民間工芸』

—凧・版画・泥人形—

6月21日(土) 講師/中尾 徳仁 学芸員

山東省は中国東部の沿海地域にある省です。ここは偉大な思想家の孔子・孟子等を輩出した地であり、古くから文化が栄え、さまざまな工芸品が作られてきました。

今回はそれらの中から「凧」「版画」「泥人形」について、現地で撮影した写真や実物を交えながら紹介します。

### 第231回『東大寺山古墳の謎を語る』

9月27日(土) 講師/藤原 郁代 学芸員

天理市の北東部、奈良盆地を見渡す丘陵上に東大寺山古墳があります。この古墳からは、古墳の年代を100年も遡る中国漢代の年号を書いた刀が出土しています。誰がいつ刀を漢から貰ったのでしょうか？なぜ100年後に東大寺山古墳に納められたのでしょうか？東大寺山古墳にはほかにも多くの謎があります。ひとつずつ見ていきます。

## ワークショップ 参加者募集!

### 「折紙を楽しもう」

- 参加費 / 2,000円 (全10回分、入館料大人400円を含みます) ※別途、折り紙代実費2,000円が必要です
- 実施日 / 4月24日(木)～2015年3月まで  
午後1時30分～3時30分 毎回木曜日を予定

### 「木の勾玉づくり」

- 参加費 / 700円 (入館料を含みます)
- 実施日 / 6月14日(土)  
午前10時00分～・午後1時30分～ 各25名

### 「長月講座」

- 参加費 / 入館料のみで受講できます
- 実施日 / 9月8日(月)、22日(月)、29日(月)  
午後1時30分～ 各50名
- 講師 / 松田真一 特別顧問

### トーク・サンコーカン今後の日程

- 第232回 10月25日(土)  
『台湾平埔族ハゼツァ族旧首長の盛衰と台中平野の歴史』  
講師 / 早坂 文吉 学芸員
- 第233回 11月22日(土)  
『古墳時代の豪族居館を考える』講師 / 日野 宏 学芸員
- 第234回 2月28日(土)  
『布留遺跡縄文時代の調査』講師 / 太田 三喜 学芸員
- 第235回 3月14日(土)  
『貨幣で世界を眺めてみよう』講師 / 梅谷 昭範 学芸員

### 編集後記

布留川のほとりの桜は、隠れたお花見スポットで、参考館からの眺めも最高です。ぜひ、お出かけ下さい!!

世界の生活文化と考古美術の博物館

天理大学附属

# 天理参考館

TENRI UNIVERSITY SANKOKAN MUSEUM

住所：〒632-8540 奈良県天理市守目堂町250

TEL：0743-63-8414 FAX：0743-63-7721

URL：http://www.sankokan.jp/

開館時間：午前9時30分～午後4時30分（入館は午後4時まで）

入館料：大人400円／団体(20名以上)300円

小・中学生200円（学校単位の団体は無料・事前申し込みが必要）

ブログ「布留川のほとり」もやっています。見てね!



携帯電話のサイトから情報をご覧頂けます

